

第3回愛知県環境教育等推進協議会会議録

- 1 日時
平成25年2月7日（木）午前9時30分から11時15分まで
- 2 場所
あいち環境学習プラザ「セミナー室」
- 3 出席者
委員12名
- 4 会議の概要
 - (1) 開会
 - ア 傍聴人について
会長から傍聴人が1名いることが報告された。
 - (2) あいさつ
千頭会長
 - (3) 議題
 - ア 愛知県環境学習等推進行動計画（案）について
 - イ 愛知県環境学習等行動計画の進捗管理について
 - ウ 愛知県環境教育等推進協議会開催要領の改正について
 - エ その他
なし
- 事務局から資料説明をし、別紙のとおり意見等が出された。
- 5 閉会

<質疑応答>

【千頭会長】

資料1について、何か御意見ございますか。

【合川委員】

19ページの第2段落「学校等における環境教育は、総合的な学習の時間や理科、社会科、家庭科等といったそれぞれの教科」とあるが、まず1点目として「総合的な学習の時間」や「理科、社会科、家庭科等といったそれぞれの教科」の並びは並列と理解してよいか。それならばその次に「道徳」を入れていただきたい。道徳の中にも自然愛護などの環境学習が入っているのでは是非入れていただきたい。

【千頭会長】

教科の中には、入らないということか。

【合川委員】

教科とは違う。

【千頭会長】

ではそれについては追加ということではよろしいですね。

【事務局】

今の件については修正させていただく。「総合的な学習の時間や（中略）それぞれの教科、」の次に「道徳及び特別活動の」という形で良いか。

【合川委員】

そのとおりである。

【千頭会長】

道徳で環境を扱う際は、先生はどのような立場の先生が担当するのか。

【合川委員】

道徳は基本的に担任が行う。場合によっては外部講師を呼んでお話していただくこともある。道徳だけでなく色々なところが関連した形で進めている学校が多いと

思う。

【千頭会長】

まさに関連させるところが大事だと思う。
他にいかがですか。

【服部委員】

12 ページの⑤「グリーン購入や、地域で生産されたものを地域で消費し、輸送にかかるエネルギーを節約することができる地産地消」とあるが、ここにもう一点付け加えるなら「地域で生産された「旬な食材を」地域で消費し、「生産や」輸送にかかるエネルギーを節約」とし、ものを作るにも旬な時期に作った食材はエネルギーがかかっていないという観点も言葉として入れても良いと思う。

【千頭会長】

今の件に関して、他の委員の方どうですか。
私の立場から言うのはおかしいが、おっしゃるとおりである。農家は時期外れに
いかに売るかで儲けるので、旬のものを売っても儲けにならないと農家から指摘
されている。環境の立場からはもっともなご意見なのだが、どう表現したら良いのか。

【事務局】

この計画は環境学習の計画であるので、正確に御理解いただくことが大事なので、
旬の時にその地域で作ったもの、つまり生産にも輸送にも極力エネルギーをかけな
いで作ったものという表現の方がこの計画ではふさわしいと考える。

【千頭会長】

更に踏み込んで、旬以外の時の農業生産について、今は石油でボイラーで加温し
ているが、そのエネルギー源を木材・木質系に変えれば、服部委員の御
指摘も受けながら農家も少しは利潤がある。エネルギー源の話にもつながっていく。

【杉浦委員】

今の件について、ここではエネルギーの観点から言うところの方が良いという
事を学ぶのであって、旬の物を食べる自由を奪うものでもないので、ここに記載す
ることは問題がない。

【千頭会長】

他にございますか。

26 ページにコーディネーターの図があるが、環境教育、環境学習だけではなく色々な分野でコーディネーターの役割がすごく大事だという指摘がある。すごく大事であると同時にコーディネーターはすごく難しいと思う。この図のように、プラザにコーディネート機能をもたせるのも実際なかなか難しく、現場に行ったり、主体のニーズや課題を掘り起こしたりしなくてはいけない。プラザがコーディネート機能を果たしていくためのこれからの戦略があるといいが、今の時点で何かあるのか。

【事務局】

この図はなるべくわかりやすく書いている。基本的にプラザにはコーディネートの窓口をおき、実際にコーディネートをする方が地域に入って、この図の学校と事業者・NPOの双方の話を聞いてをつなぐ、といったイメージで運用していきたい。

【千頭会長】

26 ページの点線の囲み部分に「コーディネーター養成講座」とあるように、そのあたりも検討してやっていくということですね。

他にいかがですか。

【浅野委員】

22 ページのエ 大学のところについて、「大学が県あるいは、企業や地域の人々など」と書いてあるが、21 ページの小学校の部分の⑥には「事業者、NPO、行政等」となっているので、「大学が県や市町村といった行政、あるいは事業者や NPO、地域の人々など」とした方が、市町村の担当者も主体的に関わらなくてはならないと思ってもらえる気がする。

【千頭会長】

今の意見について、他の委員の方いかがですか。県はいかがですか。

【事務局】

おっしゃるとおりなので、修正させていただく。

【服部委員】

26 ページの⑤「成果の確認」について、どのようにフィードバックして活用していくのか、構想みたいなものがあればお聞かせいただきたい。

【事務局】

成果の確認は、一番最後に確認すると言うよりも、途中段階と最後の両方だと考えている。コーディネートする上での難しい点、うまくいった点を積み重ねていくことが、次のコーディネートへの資産として活かせると考えているので、成果の確認は逐次コーディネーターの情報をプラザで吸収したい、あるいはコーディネートされる学校側の意見も吸収したい。途中での情報と結果としての情報を蓄積して、良い点、あるいは改正したい点を次のコーディネートに反映できるように、プラザのコーディネーターが発信していくといった形で成果確認していきたいと考えている。

【服部委員】

今のお話の中で、特にコーディネートの成功した事例を、あいち環境情報ライブラリーなどのホームページ等で皆に見える形にすると良いと思う。いいものは早く情報を得ることができる手段を御検討いただきたい。

【事務局】

コーディネートの実例、うまくいった実例等を情報発信していきたい。

【千頭会長】

岩間委員にお尋ねするが、愛知県には学校コーディネーター制度を持っているところはどのくらいあるのか。環境分野以外も含めて学校と地域の方をうまくつなぐコーディネーターはいるのか。

【岩間委員】

県としてはないが、市町村で地域の方々が学校との会議の中でそういった役割を果たしている方はいると思う。

【千頭会長】

市町村のこうしたコーディネーターとうまく連携して、コーディネートできると良いと思う。

【天野委員】

生涯学習の分野には学校支援地域本部というのが7つあるが、なかなか広がっていかないのが実状である。

【千頭会長】

文科省にもコミュニティスクールといったコーディネートのような仕組みがある。

他にいかがですか。パブコメの中に農薬やエネルギー、放射性物質についての問題もあるようだが、以前、県の環境部で化学物質リスクコミュニケーションの事業をしていたと思うが、最近はどうか。

【事務局】

化学物質リスクコミュニケーションは、ダイオキシンが非常に問題になった際に、化学物質全体について私たちはどのような危険性の中で暮らしているかをリスクコミュニケーションする必要があるということで始まったものである。

現在もダイオキシンを始め環境ホルモンなど様々な化学物質についても調査し毎年公表している。公表しただけでは化学物質の理解が進まないので、家庭の中の化学物質について子ども向けの「化学物質ガイドライン」を作成して発行している。

【千頭会長】

他はいかがですか。行動計画はパブコメにもあったように進行管理できるかどうかが大変だが、これは後ほど議題として取り上げる。

公表に向けての段取りはどのようなスケジュールなのか。

【事務局】

事務局として考えていることを説明させていただく。今日の議論を踏まえて、計画を再度検討した上で、年度内のできるだけ速やかに公表する。なるべく早い時期から多くの方々に知っていただくような工夫をしたいと考えている。

【岩間委員】

パブコメの中で、エネルギーに関する学習についての意見がたくさん寄せられており、記述内容 21 ページ「ウ 高等学校 ①再生可能エネルギー等に関する学習の推進」でエネルギーに関する環境教育の推進が記載されている。

この部分の表現に関して原子力、再生可能エネルギーも含めてエネルギーのあり方をバランスも考えながら放射能リスクも指導して欲しいといったパブコメがいくつか出てくると思う。確かに難しいテーマだが、既存のエネルギーと再生可能エネルギーについての学習の推進とか、もう少し踏み込んだ記載ができると良いと思う。

高校生は、まもなく主権者として判断していく立場になるので、色々な選択肢の中でそれぞれのエネルギーのリスクを考えながら、エネルギーに関する教育が必要

だと思ふし、そういったことをこの計画に記述できると良いと思う。

それと併せて19ページに「公害の歴史の紹介や現在の環境問題など」とあるが、現在の環境問題は18ページには有害化学物質や廃棄物や放射能とある。今、中国の大気汚染が話題になっているが、県民にとっては現在の環境問題が大きな関心事であり、これが学校教育の中できちんと扱われるかどうかが気になる場所である。ここの記述は「〇〇などの現在の環境問題」とした方が良いと思う。

随所に具体例が記載されているが、今の二ヶ所については少し記述を工夫していただき、パブコメに対する答えをもう少し考えてもいいと感じる。

【千頭会長】

とても大事な御指摘である。今日御欠席の牧原委員からも3.11以降の放射能の問題に関しては色々御指摘いただいている。まず県にお伺いするが、パブコメに対する回答として、これで答えていることになるのかということ。私ももう少し記載できると思っている。ただ、どう記載するかは難しい。

【事務局】

放射能の記載について説明する。御指摘のありました21ページ「ウ 高等学校 ① 再生可能エネルギー等に関する学習の推進」で、再生可能エネルギーや新エネルギーの学習について触れている。今の御指摘は、もう少し幅広い表現にしたらどうかという意味だと理解した。その部分についての表現は考えさせていただきたい。

放射能については高校だけでなく全部で必要だと考えたので、22ページ「オ 学校全般 ①」で書いた。学校全般なので、幼稚園等から大学まで全部ということで、「①公害の歴史や私たちの地域における自然環境、水、大気、廃棄物、有害化学物質・放射能等の環境の状況や課題への対応を題材として、環境面において安全・安心に暮らせるための環境教育を推進します」と書かせていただいた。放射能の危険性は、安全・安心教育の中でやっていく。

21ページのエネルギーそのものについては、正確な情報をまず子どもたちに伝える。子どもたちが自分で判断できるようにしていくことが大事であると考え。行動計画の中でも、何がいい、悪いという書き方は基本的に極力していない。判断に必要な情報を伝えるという意味で記載している。

【篠田委員】

原発の事故以来、エネルギー環境学習のプログラムを作りたいと依頼がたくさんきた。プログラムを考えて作る過程で感じたことは、原発の事故があったから原子力を見直すという短絡的な考え方でなくて、日本国全体でのエネルギーの使い

方の問題から入るプログラムを作成しなければいけないということである。

エネルギーの使い方を飛ばして「原発は要らない」「危険なエネルギーは要らない」という話は、エネルギー問題の根本的な解決にならない。エネルギー問題を取り上げる時には、自分たちが今使っているエネルギー総量は適正なのか、適正に使っているか、もっと節約できるのではないか、というところから入って、その途中で選択肢として再生可能エネルギーなどが出てくるのが道筋だと考えている。

ドイツでは5年ほど前から原発問題の中で、学校におけるエネルギーの削減コンクールを中高校でやっている。昨年電気代が100万円かかったのを、今年いくら減らせるかというコンクールである。20万円減らしたらその半分の10万円は生徒たちが自由に使えるお金として教育委員会から学校へ渡される、というものである。

まず、エネルギーを減らすことから考えて、その中で選択するエネルギーを考えていくことがエネルギー環境教育の基本なので、ここへ記載するならそういう手順で記載すべきであると考えている。それを飛ばしていきなり安全か安全ではないか、原子力は放射能が出るから駄目か、という話はたぶん根本的な解決にはならない。私たちがエネルギーをどう使って、今のままでいいのか、もっと節約できないのかというエネルギーの使い方から入ってその中でそのエネルギー問題を扱う環境教育のやり方が妥当だと考える。

【千頭会長】

今の件についていかがですか。

【岩間委員】

今の話の考え方を学校教育の中で投げかけていきたい。エネルギーを幅広く考えることが私たちの生活と環境全体を考えることになるので、そこから学習を出発させるのが良い。行動計画の中では高校から考えるべきだと思う。

【千頭会長】

具体的にどこをどう直すべきか。学校ということなので、19ページ以降の「学校等における環境教育の推進」の部分となるが、まずは19ページ中段の「公害の歴史の紹介や現在の環境問題」のところに「エネルギー」について追記しましょうか。もう一つは、21ページ下の高校のところに「①再生可能エネルギー等に関する学習の推進」に篠田委員と岩間委員の御指摘を少し付け加えることにしましょうか、どうでしょうか。

【服部委員】

21 ページの小中学校で「②地球温暖化に関する学習の推進」に類似した記載があり、ここではエネルギー全般に関して言っているように感じる。高校での再生可能エネルギーという言葉が目立ってしまうので、整合性やバランスを考えて表記したほうが良い。

【篠田委員】

2 ページ「ESD の概念図」に「エネルギー学習」が入っている。この中に今おっしゃったことが全部包括されている。

【千頭会長】

ここに「エネルギー学習」が出てくるが、これ以降では「エネルギー学習」という表現を使っていない。「エネルギー学習」の意味合いの中に今御指摘のあったお話が入ってくると思うので、小中学校でエネルギー全般について学び、高校で更に取組めることを記載されたのだと思うが、県としてはいかがでしょうか。

【事務局】

基本的に 21 ページ小中学校「②地球温暖化に関する学習の推進」は「CO₂を通してエネルギーに関することを学習」とある。この中でエネルギー全般に関する学習がなされる。小中学生なので、まずは身近なところから体験してもらい、エネルギーは必要だけれども減らすことも大切ということを学んでいただく。

その上で新エネルギーは技術的な部分も必要となってくるので、高校で再生可能エネルギー等に関する学習の推進の記述を設けた。高校の記述を読むとその部分がわかりにくいと御指摘を受けて感じた。基本的にはエネルギー全般に関しては小中学校で、更に高度な部分については高校でというようなイメージを描いている。

【千頭会長】

今の御指摘を受けて 21 ページ下①は文字面を読んでしまうと再生可能エネルギーのことだけと見えるので、本来のエネルギー教育に近いように記述しましょう。今、一字一句を決められないので、後日、委員の皆さんにお送りいただいて確認していただくという形にしましょうか。

他はいかがですか。大体よろしいでしょうか。

では、今日の御指摘を受けて最終版をもう一度皆様にお送りいただく形で、この協議会としては計画（案）をまとめるということにします。

岩間委員がおっしゃったパブコメに対する回答はホームページ等で回答されると思うので、可能であれば少し検討してください。

議事2に移ります。資料2「行動計画の進捗管理について」説明をお願いします。

【事務局】

資料2に基づき事務局から説明。

【千頭会長】

何か御意見ございますか。

【井中委員】

パブコメの中に進捗管理について「こと教育において進捗を管理することが適当なのか」という御意見がありました。ESDを各学校でやりませんかという話をしていた時に、教科情報が入り、総合教科が入り、今度はESDかという抵抗感を感じた。「進捗管理」という言葉自体をもう少し柔らかい言葉にできないか。資料を見ると表題以外では「把握」とか「評価」という言葉になっているので、「進捗ワーク」とか「進捗評価」とか、可能であればもっと他の言い方にできないか。

【千頭会長】

例えば「進捗状況の評価、把握評価」とか。「管理」という言葉に抵抗があるのでしょうか。何か言い換える言葉ありますか。「進捗状況の把握、評価」くらいかもしれない。もう一度御検討ください。

資料2によると、毎年目標を設定していくような感じだが、一年間でやることの目標を設定することはできても、アウトカムの方はなかなかそんな簡単には劇的に変わるわけではないと思う。

【事務局】

事業や取組のようにやれたかやれなかったか、というものであれば管理が可能だが、この計画では、行動が変わったか、意識が変わったかという部分に目標がある。会長のご指摘どおり、1年で劇的には変わらないと思う。

長期間の取組の評価として、資料の左下「2取組評価」でお示ししている。今回の計画で各主体が取組むべきことが示されており、取組が具体的に進んでいけば意識も変わると考えている。25年度に実態調査をして、28年度に再調査することにより、25年度と28年度を比べてみて意識や行動がどう変わってきたかを把握したいと考えている。

25年度から28年度の間は、取組の方向性を見ていく必要があるので、年次毎にNPOや企業の実施状況把握を行う。大きくは25年度と28年度の調査で行動計画の

評価を行い、各年度ごとに方向性についての確認をすると考えている。

【千頭会長】

今の件を含めて何かございますか。

【天野委員】

「アンケート調査の対象」に NPO があるが「環境をテーマに登録している団体」だけでいいのか。環境に取り組んでいる団体は当然やっているの、そうでない団体例えば公民館なんかでどれだけ意識が高まっているかは必要ではないのか。

【事務局】

実は一番幅広く把握したかったのは「県民」である。事務局としては県政世論調査を活用して一般県民を対象にお聞きすることを考えている。今お話のあった NPO の方も個人としての立場で有り得ると思うし、事業者の方々も有り得る中でまず大きくは把握する。次に各主体としての取組を見るという意味で書いている。

【千頭会長】

でも公民館にも聞いてみたらどうか、というところだと思うが、場合によっては生涯学習課に御協力いただいてやるとか。

【天野委員】

「県民」で全体的なことを調べるということなら良い。

【千頭会長】

環境をテーマに登録した NPO に対して、湿地を保全する活動とか自然観察を実施する活動について調査をすればその団体の取組はわかる。しかしながら、ここで言う環境学習とは、環境学習をした結果、県民が実際に環境に配慮した行動や環境保全活動を実施できるようになったかである。従って、環境をテーマとした NPO だけに取組の実態を聞いてもわかるわけではないと思う。

【浅野委員】

天野委員の意見に賛成である。今月、ある教育委員会から女性講座を担当して欲しいと依頼があった。女性講座でありながら環境をテーマにしたいということで、私は環境配慮商品の選び方について話させていただく。「環境をテーマに登録している NPO」だけでなく、もっと幅広く広げたほうが愛知県環境教育を ESD 的な視

点で皆でバックアップして、皆で主体となってやっていこうと捉えられるような意味でも、環境だけに特化しない方が良いと思う。

【千頭会長】

環境をテーマに登録した NPO だけでいいのかというのもあるし、公民館のこともあるので、方向としてできるだけ幅広く捉えられるようどうしたらよいか、御検討ください。

他に何かございますか。

【木村委員】

県にお伺いしたい。一昨日は西三河地区の環境保全推進協議会で、各市町でどういった環境に関する取組をやっているかを話し合い、明日は知多地区の環境保全推進で環境に関する視察や勉強をし、来週は三河湾浄化推進協議会で同じ環境に関する取組について話合う予定である。

各市町村が様々な取組をしているが、協議会ごとに市町村に対してアンケートの依頼がある。今後この行動計画により取組やガイドラインが決まっていくのだが、県は市町村や団体の取組状況をどのように把握していくのか。

【千頭会長】

今のお話によれば、既に広域的な組織でアンケートを実施しており、組織や地域ごとに情報交換もしている。アンケートを安易に市町村に依頼すると、市町村は何度も何度も同じ内容を答えることになる。県という組織で各々の協議会の情報を把握するべきだということである。

これは市町村だけでなく NPO も事業者もそうかもしれない。どうやって実態把握をするかという問題提起である。

【事務局】

環境部でも環境保全委員の会合を地区ごとに開いているし、三河湾浄化の取組も実施している。情報共有については、環境部内でもできていない状況であるが、今後は、極力情報共有を図っていきたい。情報共有だけでは足りない部分についてはアンケートさせていただくので、御理解願いたい。

【千頭会長】

事業者では団体加盟企業 300 数十社の EPOC さんがある。EPOC さんとしても取組んでいることがあって、それを全然関係なく県が、事業者にアンケートを取ると

EPOCさんは困るので、EPOC事務局とうまく連携をとっていただきたい。

他はいかがでしょうか。では、できるだけ上手に欲しい情報が手に入るように工夫をお願いします。

議題3「開催要領の改正について」をお願いします。

【事務局】

資料3に基づき、事務局から説明。

【千頭会長】

名前が変わるということと、分科会は委員の方以外にもキーパーソンとして呼びできるということです。皆様よろしくをお願いします。

では、全体を通じて何かございますか。

【服部委員】

コーディネーターについては、具体的にいつからどういう形で募集して進められる予定なのか。25年度のスケジュールのイメージがあれば御紹介いただきたい。

【事務局】

コーディネート業務は十分なコーディネート実績があり、人的ネットワークを持っている方にやってもらわないとできないので、新年度早々に公募をかけ、できれば5月の連休明けにもスタートしたいと考えている。

【浅野委員】

一昨日ワーキンググループの際に事務局にお尋ねしたが、平成23年6月に環境教育等促進法が改正され、それを受けての今回の計画なので、まだ他の都道府県の行動計画が出ていないとのことであった。

宮城県、岡山県、兵庫県、千葉県、石川県は環境教育をととても熱心に取り組まれている県だと捉えている。特に石川県はユネスコスクールの登録も多いと捉えている。再生可能エネルギーの学習については、宮城県がどんな環境教育の計画を立てるのか、強い関心を持っている。こういった県の取組を毎年度、進捗状況を把握する際の参考にしていきたい。

先ほどの議論の中で、小中学校でエネルギーの基本を学んでいるので、高校では一歩進んだ再生可能エネルギー、新エネルギーに入っていくというお話だった。

高校や大学でエネルギーの講義をした際の感想であるが、高校生や大学生は意外とエネルギーの基本を知ってない。3.11の東日本大地震後は、発電の中で石油、

石炭、天然ガス等の化石燃料を占める割合が90%を超えるようになり、時代の変遷によって発電で占める種類の割合が変わってきていることを踏まえると、高校だから新エネ、再生可能エネ等に的を絞るのではなく、現状に即したエネルギーの基本を改めて教える必要があると思っている。

【千頭会長】

エネルギー以外の部分も状況に応じて変わってくる。大事な御指摘である。

天野委員にお尋ねする。先ほどの服部委員のコーディネーターの御指摘についてだが、学校支援と環境教育がうまく連携することは難しいのか。

【天野委員】

コーディネートすると言っても環境教育だけではなく、防犯や授業の部活の支援等である。そこにプラスして環境教育もできるかということになると、仕事量がとても多いことと、県内に7市しかないので全部には回っていかないと思う。

【岩間委員】

国から予算をもらって学校支援地域本部を県から働きかけているが、県が全額負担するのではなく、各市町で一定の負担をしていただく。ところが多く市の町村では、既に地域のPTAと町内会が連携した学校を支える組織が、特に三河ではできているので、そこに新たにお金をもらって自分たちで負担しながら支援本部を作ることに対して、地域があまり積極的でない。

既存の組織をうまく使って、地域に合う人材を学校が行政と連携しながらうまく活かしていくような形のほうが、むしろ広がり大きいというのが現状だと思う。悪いシステムではないが、必ずしも各地域に入っていけるかどうかは難しい。

【千頭会長】

おっしゃるとおりである。特に愛知県はかつて自治省が作ったコミュニティがしっかりしているし、既に地域と学校がすごく連携しているところが多くある。

その中に環境分野もあり、学校と地域の連携でその担い手の方に環境分野を視野に入れていただくような応援がいいのか考えなくてはいけない。講座だけ開けばいいというより、中身でうまくコーディネート機能が果たせるようにしていただきたい。

服部委員、企業の立場でいかがですか。企業自身も学校とつながりを持っていて更に持ちたいけどどうしたらいいかといった課題もお感じだと思うが。

【服部委員】

企業は企業の考えで進めていくので、学校の授業のカリキュラムに沿っているものかどうか検証ができていないところが各企業が抱える課題だと認識している。

コーディネーターが学校現場の本当のニーズを把握し、企業の環境教育プログラムを学校の授業のカリキュラムに沿ったものにしていただけると良いと思う。授業の中でこの部分を事業者に期待し、先生が実施するのはこの部分ということで連携できるようになると良い。企業のプログラムが授業のカリキュラムにあうようにアレンジできるコーディネーターが良い。そうしたコーディネーターの存在により、今後より企業の環境教育も活性化されて、良いものになると期待している。

【合川委員】

企業の方に学校に来ていただき環境に関する学習を進めていただくことはとてもありがたいことで、本校でも11月にやっていただいた。学校側から言わせていただくと、どうしても企業色が強くなってしまっているように感じた。仕方のないことだとは思いますが、なるべく企業色が出ないような講座をやっていただけるとありがたいと思っている。

【木村委員】

武豊町では火力発電、県のメガソーラー、県の廃棄物最終処分場があることからエネルギー教育を行っている。色々な講座を色々な角度から学校や一般住民に対して実施しているのだが、実施方法やその内容について、本当に良かったのかと思うことが多々ある。最近もある企業に防災やエネルギー蓄電に関する環境の講座を依頼した。企業なので宣伝めいた話はある。こうした企業等に依頼する環境学習講座をどういう形で実施していくのか、県が取りまとめて、ガイドラインを出していただくと現場としては大変ありがたい。

【千頭会長】

合川委員のお話は、そもそも学校側が企業の方にどうお願いするかだと思う。現実にあるのは「一コマを何でもいいからやってください」というお願いが世の中には有り得る。

先生側が一年間で生徒に伝えるものの中に、この一コマをどう位置づけるのかということをお明らかにしておくべきであるが、必ずしも先生全員が得意な訳ではない。とにかくこの一コマを埋めなくてはいけないので、企業の方に「何でもいいからお任せします」となってしまうと、企業も何をしたらいいのかわからなくなり、企業で実施していることをお伝えすることになりかねない。

なぜこの一コマを企業にお願いするのか、それが全体の子どもの学びの中でこんな意味があるということをやうまくやりとりできないと、企業の宣伝色が残ってしまう。コーディネーターがうまく間をとりもって学校と企業をつないでいただきカバーできると良い。

【井中委員】

小中学校では地域とのつながりが重要になってくると思うが、高校がコーディネーターを頼る時はテーマが先にくる。年末に ESD をやっている高校の発表会が名大であった。ESD と言ってもある学校は環境、ある学校は国際理解、ある学校は資源問題、ある学校は食育をテーマにやっているの、なんでもいいということには実際にはない。例えば食をテーマに環境のことを考えたい時に、企業さんでもいいし企業さんじゃなくてもいいといった要望になってくるのではないかと思う。

【篠田委員】

コーディネーターの話で、今、私は昭和区で環境の審議委員をやっている。6月は名古屋市環境月間であり、6月に各区で必ず環境に関する事業をやるように言われる。担当課であるまちづくり推進室から何かいい企画はないかと頼まれると、昭和区の中で里山づくりをやっている会があるからそこと一緒になって里山生態系を学ぶのと一緒にゴミ拾いをやるということで調整してプログラムを作っている。

また、生涯学習センターが小学校から食育のプログラムについて依頼されると、私どもの団体が生涯学習センターから、食育のプログラムの依頼を受ける。子どもたちに大根を作らせて、自分たちで料理して食べるというプログラムを提案して、大根の作り方は私が教えて、大根料理は地域の女性会にお願いするというようにコーディネートしている。

また、ある大学に「みどりの環」という生物クラブがありそこの指導もしている。小学校で生物多様性やビオトープ作りたいという時は、その大学生を先生として連れてきて作業してもらっている。

コーディネーターの仕事は多方面に渡って多岐なところから要請が来る。その中に企業として学校向けの何かがあると学校へ御紹介するので、そういったところがうまくいけば企業も学校もうまくいく。この行動計画のコーディネーターもその辺を十分に考慮していただくと成功すると思っている。

【千頭会長】

皆さんそれぞれの立場でおっしゃっていますが、つなぐ役目はとても大事なので、「コーディネーター養成講座やりました、3回やりました、参加者〇〇人でした」

ということだけがアウトプットではない。今ある様々な繋ぐ機能を踏まえて、色々な場面でコーディネート機能を高めるよう御検討いただきたい。

その他、何かございますか。次回はいつ頃になりそうですか。

【事務局】

7月頃である。

どうもありがとうございました。

本日の会議で「愛知県環境学習等行動計画」策定のための検討は終了しますので、環境部長からあいさつをさせていただく。

【西川環境部長】

お礼のあいさつ

【事務局】

以上で終了する。ありがとうございました。